

エリア名	面積 m ²	現況植生	目標植生	管理区分	植生管理方針 (開園時)	課題等
西C	3,150	拠点施設西側樹林地	樹林地 ツツジ低木林（一部）	樹林管理	B 次の管理候補となるエリア	ツツジ低木林を目指すにあたり、隣接する西Dの斜面地の活用や、惣ヶ池湿地への眺望、隣接する国有林との関係もふまえて検討する必要がある。
西D	980	拠点施設西側斜面草原	—	広場管理	植栽管理及び施設管理	
西H	2,700	疎林	疎林	疎林管理	A 密度をかけて管理するエリア	道路沿いの植栽管理については指定管理業務として実施する。それ以外の草原等の管理については、公園協議会との協働による実施について今後協議のうえ進める。
西I	3,900	草原	二次草原	草原管理	A 密度をかけて管理するエリア	
西J	1,300	ツツジ林	ツツジ低木林	ツツジ低木林管理	A 密度をかけて管理するエリア	
西L	530	草原迷路	草原迷路	草原管理	A 密度をかけて管理するエリア	
副園路	530	副園路	—	園路管理	B 次の管理候補となるエリア	
湿A	257	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿B	140	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿C	49	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿D	42	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿E	42	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿F	77	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿G	35	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿H	83	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿I	466	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	
湿J	678	湿地	湿地	湿地管理	A 密度をかけて管理するエリア	

エリア名	面積 m ²	現況植生	目標植生	管理区分	植生管理方針 (開園時)	課題等
東A	4,100	草原	草原	草原管理	A 密度をかけて管理するエリア	全域を草原とするか、樹木を一部残すことなどについて、今後検討が必要。
東B	1,970	竹林	竹林	竹林管理	A 密度をかけて管理するエリア	
東C	1,190	コナラ群落	コナラ林等落葉広葉樹林	コナラ等落葉広葉樹林管理	B 次の管理候補となるエリア	下草刈りや間伐等の定手入れをすることで、雑木林として活用できる可能性がある。
東D	1,940	コナラ群落	コナラ林等落葉広葉樹林	コナラ等落葉広葉樹林管理	B 次の管理候補となるエリア	下草刈りや間伐等の定手入れをすることで、雑木林として活用できる可能性がある。
東E	740	草原	草原	草原管理	A 密度をかけて管理するエリア	
東F	910	樹林地	草原	草原管理	B 次の管理候補となるエリア	野鳥観察のモニタリング調査地点として選定されている（詳細については要確認）ことなどから、草原化する範囲等について検討が必要。
東G	1,050	草原	草原	草原管理	A 密度をかけて管理するエリア	
東I	300	コナラ群落	雑木林・ツツジ低木林	雑木林-ツツジ低木林管理	A 密度をかけて管理するエリア	
東J	300	コナラ群落	雑木林・ツツジ低木林	雑木林-ツツジ低木林管理	A 密度をかけて管理するエリア	
東K	650	草原（一部樹林地）	草原	草原管理	A 密度をかけて管理するエリア	H湿地（トンボ池）周辺での利活用や大野池への眺望の確保などをふまえて、東Lエリアへの範囲の拡大について検討が必要。
東L	7,150	コナラ群落	ツツジ低木林	ツツジ低木林管理	B 次の管理候補となるエリア	範囲が広く、林層転換のため必要な伐採などの作業にかかる労力が大きい。
東Q	640	草原	草原	草原管理	B 次の管理候補となるエリア	
東R	7,060	アラカシ群落、コナラ群落（混在）	照葉樹林	照葉樹林管理	C ほとんど手をつけないエリア	範囲が広く、林層転換のため必要な伐採などの作業にかかる労力が大きい。
東S	7,090	アラカシ群落（一部コナラ林）	落葉広葉樹林	コナラ等落葉広葉樹林管理	B 次の管理候補となるエリア	
東T	5,130	アカマツ林	アカマツ林	アカマツ林管理	B 次の管理候補となるエリア	